

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和2年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 : 雇用経済部 観光局 観光政策課

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保 (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定の期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 サンアリーナの事業の実施に関する業務 2 サンアリーナの施設等の利用の許可等に関する業務 3 サンアリーナの利用料金の收受等に関する業務 4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R2	R1	R2	R1	
1 管理業務の実施状況	A	A			開設26年を経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備投資により施設の利用環境の改善を図るほか、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するなど、適切な施設管理に努めている。
2 施設の利用状況	B	A		—	新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのイベント等の開催が中止になったことにより、全ての目標設定項目について、目標値を下回ったが、9月にはフットサルリーグの開幕戦を東京都以外では初めて誘致し、感染防止対策を徹底した上で、無観客で開催するなど、コロナ禍においても施設の利用促進に向けて積極的に取り組んだことは評価できる。 今後はコロナ禍においてもサンアリーナを安全・安心に利用いただくために管理を徹底するとともに、アフターコロナにおける更なる利用拡大に向けて、魅力的な自主事業等の実施など、施設利用の増加に向けた取組が求められる。
3 成果目標及びその実績	C	B			新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての項目で成果目標を達成することはできなかった。 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することが見込まれるため、アフターコロナを見据えた施設のPR等に努めるなど、成果目標を達成できるよう、一層の創意工夫ある取組が求められる。

※「評価の項目」の県の評価 :

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>○開設26年を経過し、経年劣化が進む中、日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備投資により施設の利用環境の改善を図るほか、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するなど、適切な施設管理に努めている。</p> <p>○三重とこわか国体・とこわか大会の開催に向けた県・市町・スポーツ団体等による現地下見・視察や事前打合せの対応のほか、国体・大会開催に向けた関係団体の活動にも積極的に協力するなど、適切に対応した。</p> <p>○コロナ禍でイベント開催が難しい中でも、9月には東京都以外では初めてフットサルリーグの開幕戦を誘致し、感染防止対策を徹底した上で、無観客で開催するなど、コロナ禍においても施設の利用促進に向けて積極的に取り組んだ。当該開幕戦はインターネットテレビ局でも中継され、8万人が視聴し、全国のフットサルファンにサンアリーナをPRすることができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての項目で成果目標を達成することはできなかった。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することが見込まれるが、アフターコロナを見据え、施設のPR等に努めるなど、成果目標を達成できるよう、一層の創意工夫ある取組が求められる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等の開催については引き続き慎重な対応が必要な状況にあるが、ガイドライン等を遵守し感染防止対策を徹底するとともに、新たな発想で創意工夫ある取組を行うことで、利用促進を図ることが求められる。</p>
--------	--

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務

■ 令和元年度末から発生した、新型コロナウイルス感染症の影響により、4月13日(月)から5月17日(日)まで三重県の指示により全館臨時休館となった。令和2年3月2日(月)から休室していた、サンアリーナスポーツクラブwithメッツについては、全国的なトレーニングジムでのクラスターの発生に鑑み、5月31日(日)まで休室とした。休館中には、サンアリーナから発症者を出さないことが公的施設の使命と考え、再開時のルール作りを行った。

【関連した主な対応】

※下記の通り方針・ガイドラインを策定し、ホームページで公開した。

- ・5/15(金) 新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした三重県営サンアリーナ利用再開に関する方針
- ・5/29(金) 新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした三重県営サンアリーナ利用に関する方針(更新版)
- ・6/18(木) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン
(サンアリーナスポーツクラブwithメッツ新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止を目的とした利用再開に関する方針)
- ・7/9(木) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.2
(新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止を目的とした三重県営サンアリーナ自主事業の実施に関する方針)
- ・7/30(木) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.3
- ・8/31(月) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.4
- ・9/19(土) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.5
- ・10/16(金) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.6
- ・12/1(火) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.7
- ・1/8(金) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.8
- ・1/15(金) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.8(一部改訂)
- ・3/8(月) 三重県営サンアリーナにおける新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインver.9

■ 三重とこわか国体・とこわか大会の開催が近づく中、県・市町・スポーツ団体等による現地下見・視察や事前打合せの対応を行った。国体・大会開催に向けた関係団体の活動にも積極的に協力した。

【関連した主な対応】

- ・9/23(水) 伊勢市国体推進局の要請により、「三重とこわか国体・とこわか大会カウントダウンボード」を設置。
- ・2/26(金) 三重とこわか国体実行委員会との卓球台保管に関する協定を締結。

■ 広報及び利用促進活動についても新型コロナウイルス感染症の影響により、施設独自の広報誌である「サンアリーナかわら版」を6月号から8月号まで発行を休止し、各種広報誌への広報活動も控えた。令和2年度は、施設ホームページによる広報を中心とした。誘致についても、休館の影響もあり大きな大会、コンサートもなく関係者と接触する機会が持てなかった。その分、電話やメールでプロモーション会社や各スポーツ団体の皆さんと連絡を取り、コンサートや大会の開催に向けて意見交換を行った。このような状況において、6月には9月に開催予定のフットサルリーグ開幕戦の開催場所として、名古屋オーシャンズと共に誘致活動を行い、東京都以外では初の開幕戦を実現することが出来た。1月のJFA第26回U-15フットサル選手権大会開催時にも、日本サッカー協会に対し代表チームの練習会場として、継続的にフットサル会場としての利用をお願いした。

■ 自主イベント事業については、16件、延べ91回のイベント事業を開催し、延べ5,361名の来館者をお迎えした。当初、34件の自主イベント事業を計画したが、4月、5月の休館や新型コロナウイルス感染状況の影響もあり、計画の半分以上の実施となった。開催時には、「新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止を目的とした三重県営サンアリーナ自主事業実施に関する方針」に沿って、感染予防対策を徹底して行った。

■ 地域活性化活動においても、新型コロナウイルス感染症の影響から大規模イベントの開催は難しく、これまで8年にわたり継続してきた、「伊勢の森トレイルランニングレース」を中止したこともあり、地域と繋がるのが難しくなった。そうした中ではあるが、地域の方々の運動不足による健康二次被害を予防する目的で、ウォーキングや健康体操を開催した。広いサブアリーナを会場としたことから、参加者からも安全・安心に運動が出来ると喜んでいただいた。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

■ 令和2年度も職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合等に、迅速に対応した。休館の期間には館内美化、整理に充て、普段時間を割くことが難しかった器具庫の整理や備品の簡易修繕も行った。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先作業員と協力し適正に管理を実施した。

■ 令和2年度は、館内の新型コロナウイルス感染症防止対策に積極的に取り組んだ。詳細は下記の通り。

- (1)管理事務所及びトレーニング室カウンターに飛沫防止シート設置。
- (2)管理事務所内応接室・打合せ室・休憩室及びトレーニング室窓に、換気のための網戸設置。
- (3)職員用(一人用)サーマルカメラを管理事務所入口に設置。

■ 環境整備事業は、下記11件の事業について例年通り計画的に実施し、令和2年度も施設の安全性・利便性の維持向上を図った。

- ・第1回環境整備事業 県営サンアリーナ ロビー天井壁補修工事
- ・第2回環境整備事業 県営サンアリーナ A駐車場街灯改修
- ・第3回環境整備事業 県営サンアリーナ レストラン出窓雨漏り補修工事
- ・第4回環境整備事業 県営サンアリーナ 非常用発電設備、蓄電池設備部品交換
- ・第5回環境整備事業 県営サンアリーナ ガスタービン発電機E年点検
- ・第6回環境整備事業 県営サンアリーナ メインアリーナ音響調整卓更新
- ・第7回環境整備事業 県営サンアリーナ サブアリーナ音響調整卓更新
- ・第8回環境整備事業 県営サンアリーナ メインアリーナ客席調光盤改修
- ・第9回環境整備事業 県営サンアリーナ サブアリーナ調光盤改修
- ・第10回環境整備事業 県営サンアリーナ 配電盤及び変圧器交換
- ・第11回環境整備事業 県営サンアリーナ 新型コロナウイルス感染防止対策環境整備

③県施策への配慮に関する業務

■ 三重とこわか国体・とこわか大会関連対応

前述の通り、三重とこわか国体・とこわか大会の開催が近づく中、各種現地下見・視察や事前打合せへの対応を引き続き行うだけでなく、国体・大会開催に向けた関係団体の活動にも積極的に協力し、施設内への掲示物の掲示や、小型家電リサイクルBOXの設置、卓球台保管に関する協定締結等の対応を行った。

(※詳細、上記「①三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務」内参照)

■ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた『三重県指針』改定に伴うサンアリーナ「感染ガイドライン」の更新

前述のとおり、三重県が新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた『三重県指針』が改定の都度、サンアリーナの「感染ガイドライン」を更新した。

■ 三重県営サンアリーナに設置する自動販売機の事業者を決める一般競争入札の実施

三重県からの指示に基づき、令和3年4月から三重県営サンアリーナに設置する自動販売機の事業者を決める一般競争入札を実施した。

3/3(水)までの参加申込に5社からの参加申込を受付け、3/12(金)に入札を行い、4社が落札事業者となった。

なお、本入札に関する情報は、三重県営サンアリーナのホームページに都度掲載し、公表した。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

■ 令和2年度は情報開示請求はなかった。

⑤その他の業務

■ 周辺交通・駐車場対応

新型コロナウイルス感染症の影響から、コンサートの開催が無かったこと、他にも大規模な大会やイベントが中止になったことから、周辺交通や駐車場対応が問題となることはなかった。

ただ、駐車場環境が年々変化していることから、コンサートや大規模イベント再開時には、しっかりと対応できるよう引き続き所管課と連携しながら、指定管理者として備えていく。

■ 人材育成事業

人材育成事業として、下記講習等に職員が参加した。

(1) 三重県観光局主催「第1回三重の観光ニューノーマル推進セミナー受講」サービスGチーフ1名(12月)

(2) 伊勢商工会議所主催「新入社員ビジネスマナー研修講座」事業G職員1名(3月)

(2)施設の利用状況

	【平均稼働率】	(2年度実績)	(目標)	(元年度実績)	【利用人数】	(2年度実績)	(目標)	(元年度実績)
メインアリーナ	34.2%	57.0%	55.8%	アリーナ	31,155人	256,500人	291,946人	
サブアリーナ	59.5%	67.0%	69.7%	会議室等	9,268人	25,000人	21,466人	
会議室等	8.5%	20.0%	19.1%	トレーニング室	5,387人	15,000人	9,321人	
				フィットネス室	2,862人	3,500人	3,417人	
				合計	48,672人	300,000人	326,150人	

2 利用料金の収入の実績

	2年度実績	2年度目標	対目標比	元年度実績	対前年比
利用料金収入	31,135,820円	77,550,000円	40.1%	106,408,254円	29.3%
※利用料金減免等の内訳 割引金額 1,215,811円 減免金額 992,393円 特別割引金額 142,725円 特別減免金額 1,449,780円 合計 3,800,709円					

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R2年度	R1年度		R2年度	R1年度
指定管理料	213,968,102	201,985,272	人件費	71,061,658	84,318,590
利用料金収入	31,135,820	106,408,254	光熱水費	30,960,156	48,009,536
自主事業収入	7,411,428	23,609,240	その他一般管理費	113,900,525	153,257,419
営業外収入	9,176,728	5,211,759	自主事業経費	21,290,292	17,576,538
			消費税	8,452,722	9,656,376
合計 (a)	261,692,078	337,214,525	合計 (b)	245,665,353	312,818,459
収支差額 (a)-(b)	16,026,725	24,396,066			

※収支差額は法人税等税引前当期純損益額

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	3,800,709	5,891,651
---------	-----------	-----------

4 成果目標とその実績

【数値目標】	目標値	成果・実績	備考(参考数値)
メインアリーナ平均稼働率	57.0%	34.2%	令和元年度 55.8% 平成30年度 69.0% 平成29年度 59.6% 平成28年度 65.9% 平成27年度 55.4% 平成26年度 51.4%
サブアリーナ平均稼働率	67.0%	59.5%	令和元年度 69.7% 平成30年度 73.3% 平成29年度 70.6% 平成28年度 75.0% 平成27年度 67.1% 平成26年度 66.9%
会議室等平均稼働率	20.0%	8.5%	令和元年度 19.1% 平成30年度 17.1% 平成29年度 20.5% 平成28年度 29.0% 平成27年度 16.2% 平成26年度 14.7%
自主事業イベント件数	30件	16件	・スポット型 13件/17回/年間(スポーツ健康振興事業、文化事業等) ・通年型 3件/74回/年間(スポーツ教室、ダンススクール、ボルダリングDAY)
アリーナ利用人数	256,500人	31,155人	令和元年度 291,946人 平成30年度 221,732人 平成29年度 783,867人 平成28年度 196,636人 平成27年度 247,031人 平成26年度 192,273人
会議室等利用人数	25,000人	9,268人	令和元年度 21,466人 平成30年度 20,199人 平成29年度 45,534人 平成28年度 22,584人 平成27年度 20,180人 平成26年度 21,998人
トレーニング室利用人数	15,000人	5,387人	令和元年度 9,321人 平成30年度 9,648人 平成29年度 7,266人 平成28年度 8,853人 平成27年度 15,667人 平成26年度 13,190人
フィットネス室利用人数	3,500人	2,862人	令和元年度 3,417人 平成30年度 4,518人 平成29年度 4,201人 平成28年度 3,898人 平成27年度 3,891人 平成26年度 3,732人
サンアリーナ利用人数合計	300,000人	48,672人	令和元年度 326,150人 平成30年度 256,097人 平成29年度 840,868人 平成28年度 231,971人 平成27年度 286,769人 平成26年度 231,193人
今後の取組方針			<p>■ 令和2年度に実施予定であった国体のプレ大会が全て中止となり、全ての競技が予行演習なく本番を迎えることになる。加えて広報活動に伴うイベントも未開催で、国体事務局や競技団体関係者間で不安な状況となっている。三重県を挙げての大会を三重県営のサンアリーナとして、大会が成功裏に終わることができるよう、過去の経験を出し切りサポートしていく。</p> <p>■ まだ続くであろうコロナ禍においては、大きなイベントが無理なら小さなイベントに切り替え、かつ安全に活動できる方策を考える。地域の子供たちの新たなスポーツの場として、平日を利用したスポーツ教室を複数開校し、子供たちの「好きなスポーツ」を見つけられる場作りに新たに取り組みたいと考えている。複数のスポーツ指導者と子どもの新たな可能性を見出すことをテーマに行っていく。</p> <p>■ サブアリーナのボルダリング利用者も地元の固定的な利用者も増えてきたが、県外の利用者を増加させることは難しい。まずは、地元市民の利用者を今以上に増やせるよう、誰でも参加しやすい教室や、各自治会等でのイベント機会を提供し、サンアリーナでボルダリングに出会い、競技者としての出発点にもなるような仕掛けをしていく。</p> <p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響でコンサートの実施ができないエンターテインメント関係者とも情報共有し、コロナ禍で我慢を強いられているアーティスト、ファンが心待ちにしているアリーナコンサートの再開に向けて準備していく。</p> <p>■ コロナ禍でのスポーツ大会やコンサートが次から次へと中止となり、特にスポーツ大会での最終学年を迎えた学生達の無念な思いや、楽しみにしていたアーティストのコンサートが見れない残念な気持ちを感じる事となった。単に機械的な貸館を行うのではなく、主催者や利用者の気持ちに寄り添った対応を行い、リピート利用の促進に繋げていく。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R2	R1	
1 管理業務の実施状況	A	A	<p>■ 令和2年度も職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めることができた。その中で発生した不具合や障害に関しても、迅速に対応にあたることができた。休館の期間には館内美化、整理に充て、普段時間を割くことが難しかった器具庫の整理や備品の簡易修繕を行った。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先作業員と協力し適正に管理を実施することができた。</p> <p>■ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止対策の取組として、トレーニング室に換気用網戸を新たに設置した。また、県の環境整備事業で「体表面温度計測サーマルカメラ」を主要な出入り口5カ所に設置し、高熱者の入館を防ぐ環境を整えた。さらに貸館利用後の消毒作業に電動噴霧器を購入、手指消毒液の各所への設置等、新型コロナウイルス感染拡大防止策に積極的に設備投資を行い施設の利用環境改善を図った。</p>
2 施設の利用状況	B	A	<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、4月4日、5日に開催予定だった「ゆず」のコンサートが令和2年3月24日に中止発表、5月16日、17日に開催予定だった「FANTASTICS」のコンサートも令和2年4月8日に中止発表された。その後、4月13日から5月17日まで三重県の指示による全館臨時休館と、苦難のスタートとなる。再開後も夏から秋に予定されていた、三重とこわか国体・とこわか大会のプレ大会や全国中学校体育大会が中止となり、本来、東京オリンピックや三重とこわか国体・とこわか大会に向け、スポーツへの機運が高まっていはずであったが、非常に厳しい1年となった。</p> <p>■ そうした中、長く地道に営業活動を続けているサッカー関係で9月にはフットサルのFリーグの開幕戦、年明け1月にはJFA第26回全日本U-15フットサル選手権大会、2月にはJFA第26回全日本フットサル選手権大会と全国クラスの大会利用が3件あり、3月にはプロバスケットのBリーグ公式戦を開催した。コロナ対策を事前に主催者並びに関係者と十分に協議の上、全国クラスの大会をコロナ禍において安全・安心に開催し、サンアリーナの存在を改めて全国に示すことができた。</p>
3 成果目標及びその実績	C	B	<p>■ 稼働率については、メインアリーナ、サブアリーナ、その他会議室共に新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値・前年度対比においても未達成となった。</p> <p>■ 利用人数についても稼働率同様、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、4月から5月にかけて1か月以上休館としたこともあり、アリーナ・会議室・トレーニング室で目標値を大きく下げる結果となった。一方で、フィットネスの利用人数において、新たな教室の開講や個人でのご利用が見られ、目標対比81.8%と年度後半少し盛り返した。</p> <p>■ 貸館件数の過去3年度(H29～R1)平均は467件であったが、令和2年度はその半数に及ぶ230件の貸館予約が取り消され、目標値達成の上で大きな妨げとなった。</p>

※評価の項目「1」の評価 :

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
- 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 当初の目標を達成している。
- 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価

■ 令和元年度末からサンアリーナにも新型コロナウイルス感染症の影響が出始め、本来であれば東京オリンピックイヤーとして、国体開催も近づく当県では、スポーツによる盛り上がりが出来、好スタートするはずであったが、全く予想外の始まりとなった。夏の全国中学校体育大会等、夏開催の全国大会中止発表が年度初め早々にあった。全国大会については、県予選、東海予選など事前の大会が開催できない事から早めの判断になったとの事。加えて4月1週目と5月中旬に開催を予定していたコンサートまで中止となり、当初から苦難のスタートとなった。

■ 4月13日(月)から5月17日(日)には、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、全館休館を余儀なくされた。ただ、その期間を有効活用すべく館内美化、整理に充て、普段時間を割くことが難しかった、器具庫の整理や備品の簡易修繕などを行った。また、サンアリーナから発症者を出さない事が公的施設の使命として、職員へのコロナ感染症対策の徹底を指導・教育し、合わせて再開時のルール作りを行い、再開準備を万端にした。

■ 再開後は、サンアリーナで行われる大会規模の大きさから、通常の貸館状況に戻るのには容易ではなく心配されたが、サブアリーナで行われた6月の三重県体操協会主催の新体操強化練習会に始まり、9月5日(土)6日(日)には、メインアリーナを使ってフットサルの国内最高峰であるF1リーグの開幕戦が行われた。全国から12チームが参加し、無観客での開催であったが、インターネットテレビ配信で約8万人が視聴されたとの事であった。また、年明け1月9日(土)から11日(月・祝)には、JFA第26回全日本U-15フットサル選手権大会が、2月19日(金)から21日(日)、27日(土)から28日(日)にJFA第26回全日本フットサル選手権大会と、立て続けにフットサルイベントが開催され、コロナ禍ではあったが、全国にフットサル会場としてのサンアリーナをアピール出来た。3月には、例年開催であるプロバスケットボールのB1リーグ公式戦『京都ハンナリーズVS.三遠ネオフェニックス』戦を自主事業で開催した。令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したため、2年ぶりの開催で県内のバスケットボール関係者、ファンの方々に喜んで頂いた。これらは、主催者とも相談、協力し徹底した感染防止対策を行い、一人の感染者も出すことなく無事終了した。結果、関係者の皆様にも全国規模の大きな大会が安全・安心に開催できるアリーナとして評価をいただいた。

■ サブアリーナのボルダリング施設の活用について、6月に伊勢市内のこども会へ施設の協賛を行い、ボルダリング体験会を実施した。新たな子ども会の行事として子供たちは勿論、親御さんたちにも大変喜んで頂いた。また、1月と2月に開催する『ボルダリングDAY』を伊勢市観光協会が展開した、伊勢市二見浦活性化事業の一環として、インターネット版のじゃらんネットを通じ『じゃらん遊び体験』に掲載。新型コロナ第3波の影響もあり、ご利用者はなかったが、全国にサンアリーナにボルダリング施設があることを大手旅行会社のサイトを通して周知できた。

■ 自主事業では、全館休館や新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで8年間続けてきた『トレイルランニングレース』の中止を余儀なくされたことや、実施事業も目標の約半分16件にとどまった。ただ、実施した16件全てのイベントで感染防止対策を徹底して行い、一人の感染者も出すことなく終えることができた。